

## 頭痛と眼瞼下垂 がんけん

症状の出方や感じ方、訴え方などは、患者さんでそれぞれ違う。医者は、いくつになっても初めての経験させられる。

72歳のK子さん。「1週間前から、左眼辺りがスキンスキンと痛い。一時軽くなった。が、昨日また強くなった」と話す割には、それほど痛そうでもない。が、「頭が痛くなった時には、冷汗が出た。以来、ものが二重に見える時があり、左のまぶたが下がってきた」とも言う。

確かに、左のまぶたが下がって、目が少し小さく見える。」眼瞼下垂」という。だが、不思議なことに、黒目（瞳孔）の大きさに左右差はない。ものが二重に見えるという複視も確認できない。だが、加齢による眼瞼下垂ではあるまい。脳外科医者なら、頭痛に眼瞼下垂とくれば、まずは「脳動脈瘤」による動眼神経麻痺」を疑う。

「はい、おへい、頭のMRI（磁気共鳴画像）の検査をした。予想通り、左眼の奥にある内頸動脈に脳動脈瘤が見つかった。が、意外だったのは、その大きさが3、4mmと小さかったこと。さらに、症状の割に

は、くも膜下出血が強いことだった。意識がなくなっても不思議ではないほどののだ。

Kさんは、少なくとも1週間前と昨日の2回、くも膜下出血を起こしたと思われる。いずれも、急に頭痛がして、冷汗をかいている。1回目は、いわゆる「警告発作」と言われる程度の軽い出血だった。が、出血を繰り返すたびに、破れた動脈瘤の穴は大きくなる。出血も強くなり、致命的になることが少なくない。

ちなみに、くも膜下出血の死亡率は約50%である。でもKさんのおおじいちゃん、くも膜下出血を繰り返して重症のはずなのに、症状が軽そうに見える患者さんもいるのである。気の小さいワッシーなんか、初めての患者さんを診る時は、いつもドキドキしている。

（石黒修三iiiこへろクリニック・脳神経外科医…5/23北國新聞掲載）